

第 1763 回例会報告

令和4年11月17日(木)晴れ

会長告知

11月はロータリー財団月間

会長 萩田 均

新型コロナ感染症、県のレベルが6と医療非常事態宣言となり、昨日の感染者数が3821人と過去最高数になってしまいました。しかし、レベルが高くとも経済活動、仕事は着実にこなしていかなければ、私たち企業は生きていけません。諏訪グループの中でも諏訪湖ロータリークラブは例会開催基準が厳しいほうです。他のクラブがよい例とは思いませんが、理事会に諮りつつ対策を考えていきたいと思いません。例会を大切にしていかなければならないこと、健康な人を基準とするのではなく、弱い人の立場を尊重できるクラブでなくてはならないことを、大切にすることを目指したいと思いません。

今月はロータリー財団月間です。詳しい話は国際奉仕担当のこの後、話があります。私からは本年度の財団補助金の件を話させていただきます。ロータリー財団の補助金は大きく分けて2種類あります。それは地区補助金と、グローバル補助金です。地区補助金は3年前に諏訪湖ロータリークラブ会員が寄付をしたクラブ寄付総額の約25%が申請後、地区の審査を受け各クラブに事業補助されます。ちなみに本年は約50万円の補助を受けて諏訪湖浄化の事業に使用しています。ただ当地区においては3年以上同一事業に支出しない方針があり、ここが事業実施の中では厄介な規定です。グローバル補助金

は外国の他クラブとの共同事業のため、もう少し複雑なので必要な時に説明します。ただ、基本的には私たちの寄付をした財団基金が、わたしたちのクラブがいただく金額として、3年後反映される構造です。ここで国際奉仕委員会において寄付の集金をします。大変厳しい経済状況ではありますが、クラブの事業に反映でき、社会奉仕に生かせることをご理解いただき、笑顔の寄付をお願いします。

また、申告が必要ですが、米山奨学会、ロータリー財団ともに12月までに寄付については2月初旬に全額控除証明書が送られてきます。確定申告に使うことができますので、ロータリークラブの政府への影響力を感じることもあります。

◇幹事報告◇

【報告事項】

地区大会のお礼の手紙が届きました。

【受領文書】

ハイライト米山がきました。ご覧になりたい方は事務局までご連絡ください

米山・財団寄付を 例会場のほか FAX・LINE・メールでも受け付けています

例年通り、財団月間にあたり財団米山の寄付を受付にて国際奉仕委員会をお願いします。

WEB 開催などのため行き会う機会がないと思い FAX でのお申し込みの連絡をしましたので、FAX・メール・LINE などどんな方法の申し込みでも大歓迎です

♪出席報告		♪ニコニコBOX		♪今週のことば
会員数	35人	6人	16,000円	ロータリー財団月間、よろしく申し上げます 萩田会長
出席対象	34人	累計	297,000円	
出席者数		目標額	60万円	
出席率		達成率	49.5%	
前回修正				



2022-2023 年度 諏訪湖ロータリー活動方針

「考えよう、想像しようロータリー」

第1763回例会

ロータリー財団 米山記念奨学会について

高林一紀国際奉仕委員
担当 国際奉仕委員会

1)ロータリー財団について

ロータリー財団は1917年RIの6人目の会長であるアーチ・クラフトが、「基金3をつくり、何かよいことをしようではないか」と国際大会で提案がしたことがきっかけです。

100周年を迎え、次の100周年が奉仕の第二世代になるよう2013年に「未来の夢計画」をスタートさせました。

・国際ロータリーとロータリー財団とはどのような関係にあるのか

ロータリー財団は国際ロータリーに併設された法人であり、理念的にも、実際的にも一体の組織として機能しています。

国際ロータリーは会員からの会費によって支えられロータリー財団は自発的な寄付によって支えられています。

又ロータリーは、クラブ奉仕 職業奉仕 社会奉仕 国際奉仕 青少年奉仕を目的に活動しロータリー財団は地区補助金 グローバル補助金 ポリオプラスなどロータリーの目的を実現するための資金管理・援助をおこなっている法人であります。

・ロータリー財団への寄付の種類

年次寄付

年次寄付は寄付の基盤であり、使い道を指定せずロータリー財団に寄付するもので毎年100ドルを目標にしています

3年後地区活動資金として地区に50%もどってきます

恒久基金寄付

寄付金は原則として使用せず基金として積み立て運用し、その収益のみが3年後に使用されます

使途指定寄付

あらかじめ使い道を決めて寄付するものです 代表的なものにポリオプラスがあります。

・財団の寄付金の流れ(シェアシステム)について

3年前の年次寄付金の元金と恒久基金の運用益を合わせたものが年次プログラム基金となります。今年度の年次寄付金に恒久基金の運用益がプラスされ3年後に年次プログラム基金になります。

基金は

国際財団活動資金(WF)50%

地区財団活動資金(DDF)50%に二分され

国際財団活動資金の使途はグローバル補助金として海外を含む、大きなプロジェクトに使われ地区財団活動資金の使途は地区に裁量権が委ねられ地区補助金として国内外の奉仕事業に使われます。

2)米山記念奨学会

ロータリーの創始者である故米山梅吉氏の生前の功績を讃え、1952年東京ロータリークラブが発表した「米山基金」が米山記念事業の始まりです。

・目的

ロータリー米山記念奨学会は、将来母国と日本との懸け橋となって国際社会で活躍する優秀な留学生を奨学することを目的としています。

・民間最大の奨学事業

米山留学生の採用数は、年間860人(枠)国際奨学団体としては、事業規模・採用数とも日本国内では民間最大です。

・特色

奨学金による経済的な支援だけでなく、ロータリークラブ独自の世話クラブとカウンセラー制度による心の通った支援を行っています。

御寄付のお願い

前段のように高林一紀会員から説明していただきました。



ロータリー米山記念奨学会に込められた願いは、二度と戦争の悲劇を繰り返さないために、国際親善と世界平和に寄与したいという、東京RCの当時のロータリアンたちの強い願いがありました。

将来母国と日本との懸け橋となって国際社会で活躍する優秀な留学生を奨学することを目的としています。

優秀とは

- (1) 学業に対する熱意や優秀性はもちろんのこと、
- (2) 異文化理解
- (3) コミュニケーション能力への意欲や能力に優れている点が含まれます。

諏訪湖クラブでは、今までに第9期王豪振(台湾) 第16

期:キョウ・クハカ(韓国)第25期:李向軍(中国)、そして今期、劉強さんのお世話を、小口直久会員をカクセーにお願いして、引き受けています

米山奨学会の諏訪湖ロータリーの寄付実績は累計は(1期~36期)2,940万円 地区内21位です。米山功労者42名 米山法人2社 メジャードナー2名です。

ロータリー財団は、世界各地で奉仕活動をする資金を集めています。世界社会奉仕活動は、英語では World Community Service と記され、WCS活動と称されています。国や行政が地域社会のニーズを満たせない発展途上国や開発途上国で、ロータリークラブも資金の制約等で奉仕活動が実践できない場合に、援助を海外の地区やクラブに求め、協力して奉仕活動を行うのが世界社会奉仕活動です。世界奉仕活動には6の重点分野

- ① 平和と紛争予防/紛争解決
- ② 疾病予防と治療
- ③ 母子の保健
- ④ 水と衛生設備
- ⑤ 基礎教育と識字率向上
- ⑥ 経済開発と地域開発 等があり、世界各地で事業が行われています。

諏訪湖ロータリークラブの寄付実績は、2021年6月末(1期~36期)累計\$261,964 約3,798万円(1\$=¥145)で、ポール・ハリス・フェロー(PHF)・マルチプルPHF 53名、ベネファクター8名で、地区内18位です。

2600地区内35番目の創立クラブとしては、米山寄付、財団寄付、共にかなりの貢献度だと思います。

米山奨学会寄付、ロータリー財団寄付については、ロータリー入会にあたって会費以外の負担があることはほとんど説明がなされていません。しかし、どうも日本のロータリークラブ、ロータリアンすべてがやっていることを考えると、任意寄付とは言いながらロータリアンの最小限の奉仕活動・義務的寄付と認識されているようです。

クラブ創立以来、長年、寄付のお願い、募集をお願いしてきましたが、会員の皆さんがどのようにこの寄付をお考えか聞くことがありませんでしたので、今回お聞きしました。

「米山も財団も、人間社会で、持つ人が持たざる人を援

助していくことが、人類の幸福な進歩、平和に貢献する。基本的な人間の生き方だから。」「良いことだと思うが、援助する相手の顔が見えないことが・・・さみしい」「自分の事業が利益を上げて、そのお裾分けができる喜び」「財団の場合、クラブの奉仕活動に戻ってくるから」等々のご意見・感想がありました。

世界社会奉仕(WCS活動の恩恵は、援助される側の人々だけではなく、活動に参加した私達ロータリアンも受けることを実感して下さい。私達の活動によって助けられた人々の喜びを目の当たりにする時、私達奉仕を實踐したロータリアンも大きな喜びを手に入れる事ができます。さらに国際理解や親睦を一層深めていく事ができるのです。奉仕の相手だけではなく、奉仕をした自分も満たされるのが、真の奉仕です。

かつて、渡邊芳紀会員は、「こんな 幸福な境地になれるのは、奉仕を實踐し、人々の喜びに共感する時です。世界社会奉仕活動はその絶好の機会です」と言っていました。



1962-63年度RI会長(インド・カルカッタRC)ニッティシ・ラハリ氏の「世界のどこかの片隅に、一人でも不幸な人がいる限り、我々ロータリアンは幸せになることは出来ない」を心の片隅に置いておいて、時には、今夜の遊びを我慢して・・・、来

週のゴルフも我慢して・・・

みなさんからの善意のご寄付をお待ちしています。